

株式会社ラクト・ジャパン
2023年11月期第2四半期 決算説明会 主な質疑応答（要約）

開催日	2023年7月19日（水）
出席者	代表取締役社長 三浦 元久 取締役 分銅 健二

Q： 乳原料・チーズ部門の本格回復はいつ頃になるのか。今後の販売数量の見通しについてどう考えているか。

A： 当社の乳原料・チーズ部門はかなり善戦していると思う。シェアも拡大している手ごたえがある。ただし、コロナ禍、ウクライナ紛争によるエネルギー価格の高騰、インフレなどの影響により、日本の乳業界の事業環境自体はかつてないほど複雑な様相を呈している。

懸案の国内の脱脂粉乳在庫問題は、昨年10万トンにまで達した在庫が足元6万トン台まで減少しているが、8月に再度の乳価値上げを控え、牛乳の消費低迷の懸念もある。このような環境下、乳製品輸入の本格回復の時期について、はっきりとは言いにくいというのが率直なところだ。

しかしながら、酪農業界の現状を鑑みると、今後中長期的には、乳原料の供給において、輸入の位置づけが非常に重要になってくるのではないかと考えており、当社の事業環境は改善していくものとみている。

Q： 国産脱脂粉乳の輸出事業について、持続的な輸出に向けた議論の進捗はどうか。

A： 輸出については、酪農生産者および組合による拠出金からの補助金で輸出事業が行われてきた。円安傾向にあったことや昨年の乳製品の国際価格の高止まりは、日本産脱脂粉乳の輸出にとって追い風となった。業界内では今後の酪農乳業の持続的な成長・発展のために輸出が不可欠だとの意見もあるが、まだそれが広がっていないのが実情だ。

一方、脱脂粉乳とは別に、日本産の牛乳や乳製品をアジア各国に向けて積極的に輸出しているという動きは乳業界の中でも大きくなりつつある。当社は、一昨年からは脱脂粉乳の過剰在庫問題解決のために輸出事業をお手伝いしてきたが、今後は脱脂粉乳に限らず日本産の乳製品の輸出にも取り組んでいきたい。

Q： 短期的には消費減退のリスクがあるが、これはいつ頃まで続くリスクだと乳業界では考えられているのか。

A： 当社としては、今期いっぱいはいは我慢のしどころだと考えている。

Q： 昨年 11 月の乳価値上げの際は牛乳の消費も減り、業界としては苦戦していたように見えた。これに対し、今年 4 月の値上げでは各社とも踏ん張っているように感じる。菓子や飲料などの需要も強く、次の値上げも乗り切れそうに思えるが業界各社は慎重な姿勢なのか。

A： 日本では長くデフレの時代が続いたので、消費者は急激なインフレに直面し当惑しているのではないかと思う。値上げ影響もある程度時間が経てば落ち着いてくるだろう。しかし、乳業界としては昨年から 3 度目の値上げとなるので、その影響については様々な意見がある。

Q： P B R改善に向けて、情報開示に対する具体的な課題認識など教えてほしい。

A： P B RをR O EとP E Rに分解して考えると、R O Eについては 10%以上を目指し以前より取り組みを進めている。P E Rについては開示情報を含め工夫していく必要があると考えている。ここ数年、投資家の皆さまに当社の成長性を十分にお示しできていないと思っている。中長期ビジョンはお伝えしているが、コロナ禍ということもあり、なかなか実績が積みあがっていない。今後 I Rを強化し、原点に立ち返り、当社の業界内でのユニークなポジショニングや成長性をお伝えしていきたい。コロナ禍で事業環境が激変する中でも、当社はシェアが高まっているという魅力を丁寧にご説明させていただき、投資家の皆さまにご期待いただけるように努める所存だ。

以上

本資料は、フェアディスクロージャーの観点から、決算説明会の質疑応答をもとに作成しております。内容につきましては、ご理解いただきやすいよう一部で加筆・修正しております。また、その情報の正確性・完全性を担保するものではなく、今後予告なく変更される可能性がありますことをご承知おきください。